

2005年6月

6～18歳の子どもを持つ父母600名に聞いた 『子どもの将来に向けた親の意識調査』

第一生命保険相互会社（社長 斎藤 勝利）のシンクタンク、（株）第一生命経済研究所（社長 石嶺 幸男）では、全国に居住する6～18歳の子どもを持つ父母600名を対象に、標記についてのアンケート調査を実施いたしました。

この程、その調査結果がまとまりましたのでご報告いたします。

目次

【アンケート調査の実施概要】	1
子どもを塾や習い事に行かせているか？	2
子どもをどんな塾や習い事に行かせているか？	3
子どもを塾や習い事に行かせ始めた年齢は？	4
子どもの塾や習い事の月々の費用は？	5
子どもを私立の学校に行かせたい（行かせている）か？	6
子どもに求める学歴は？	7
子どもに将来なって欲しい職業は？	8
子どもに交際相手ができるもいい年齢は？	9
子どもには何歳までに結婚して欲しいか？	10
子どもと将来同居や近居をしたいか？	11
子どもの将来について心配なことは？	12
【研究員のコメント】	13

当研究所ホームページアドレス
【<http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/ldi>】

お問い合わせ

株式会社 第一生命経済研究所
ライフデザイン研究本部 研究開発室
広報担当：丹野・新井
〒100-0006
東京都千代田区有楽町 1-13-1
TEL . 03 - 5221 - 4771
FAX . 03 - 3212 - 4470

【アンケート調査の実施概要】

1. 調査地域と対象 全国に居住する6～18歳の子どもを持つ父母
2. サンプル数 600名
3. サンプル抽出方法 第一生命経済研究所生活調査モニター
4. 調査方法 質問紙郵送調査法
5. 実施時期 2005年1月
6. 有効回収数(率) 580名(96.6%)

7. 回答者の属性

(単位:人)

	30代以下	40代	50代以上	合計
父親	71	183	27	281
	(25.3%)	(65.1%)	(9.6%)	(100.0%)
母親	161	127	11	299
	(53.8%)	(42.5%)	(3.7%)	(100.0%)
合計	232	310	38	580
	(40.0%)	(53.4%)	(6.6%)	(100.0%)

8. 子どもの属性

(単位:人)

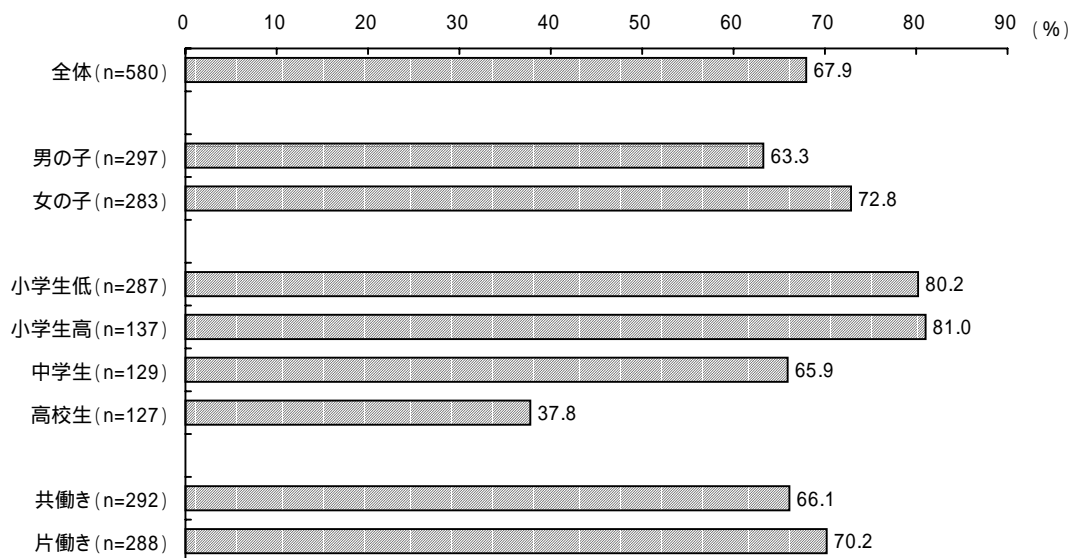
	小学生低 (6～9歳)	小学生高 (10～12歳)	中学生 (13～15歳)	高校生 (16～18歳)	合計
男の子	96	68	70	63	297
	(32.3%)	(22.9%)	(23.6%)	(21.2%)	(100.0%)
女の子	91	69	59	64	283
	(32.2%)	(24.4%)	(20.8%)	(22.6%)	(100.0%)
合計	187	137	129	127	580
	(32.2%)	(23.6%)	(22.2%)	(21.9%)	(100.0%)

アンケートでは、すべて「第一子」について質問し、回答していただいた。

子どもを塾や習い事に行かせているか？

子どもを塾や習い事に行かせている親は、全体の67%。
男の子よりも女の子の方が割合は高く、小学生は8割以上にのぼる。

図表1 子どもを塾や習い事に行かせているか？(全体・性・年代・働き方別)
<「行かせている」と回答した割合>



まず最初に、子どもを塾や習い事に行かせているかを尋ねました。

全体では、「行かせている」と回答した親は67.9%おり、約3分の2の父母は子どもを塾や習い事に行かせていることがわかりました。

子どもの性別に見ると、「行かせている」割合は、男の子の63.3%に比べ、女の子は72.8%と10ポイントほど多く、男の子よりも女の子の方が塾や習い事に行っていることが見て取れます。

子どもの年代別に見ると、子どもが小学生の場合は8割以上の親が「行かせている」のに対し、中学生(65.9%)、高校生(37.8%)と、子どもが成長するにつれその割合は減少するようです。

親の働き方別に見ると、共働き・片働きによる大きな差異はありませんでした。

子どもをどんな塾や習い事に行かせているか？

全体では、「学習塾」(42%)が最も多い。「学習塾」について、男の子は「水泳」(25%)、女の子は「ピアノなど楽器」(37%)の人気の高い。

図表2 どんな塾や習い事に行かせているか？(全体・性・年代別) <複数回答>

	n	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位	
全体	393	学習塾	42.2%	ピアノなど楽器	24.2%	水泳	23.9%	英会話	14.5%	書道	11.7%
男の子	188	学習塾	44.7%	水泳	25.5%	英会話	14.4%	ピアノなど楽器	10.1%	書道	6.4%
女の子	205	学習塾	40.0%	ピアノなど楽器	37.1%	水泳	22.4%	書道	16.6%	英会話	14.6%
小学生低	150	水泳	38.7%	ピアノなど楽器	29.3%	英会話	18.0%	学習塾	14.7%	書道	12.0%
小学生高	111	学習塾	39.6%	水泳	24.3%	ピアノなど楽器	21.6%	英会話・書道		17.1%	
中学生	84	学習塾	75.0%	ピアノなど楽器	21.4%	書道	6.0%	水泳	4.8%	英会話	3.6%
高校生	48	学習塾	77.1%	ピアノなど楽器	18.8%	英会話	16.7%	水泳	10.4%	書道	8.3%

図表1において、子どもを塾や習い事に「行かせている」と回答した父母に対し、どんな塾や習い事に行かせているかを尋ねました。

全体では、「学習塾」(42.2%)が最も多く、ついで「ピアノなど楽器」(24.2%)、「水泳」(23.9%)といった結果になりました。

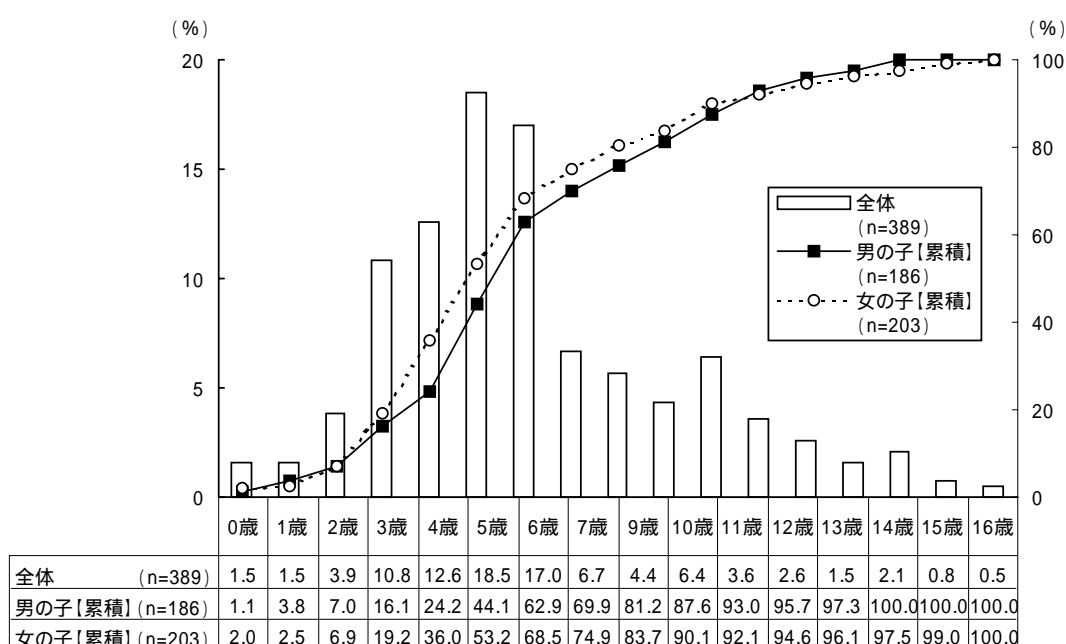
子どもの性別に見ると、第1位は男女とも「学習塾」なのに対し、第2位は男の子「水泳」(25.5%)、女の子「ピアノなど楽器」(37.1%)と違いができました。

子どもの年代別に見ると、小学生低学年では第1位「水泳」(38.7%)、第2位「ピアノなど楽器」(29.3%)、第3位「英会話」(18.0%)と上位3位内に「学習塾」は入りませんが、子どもが小学生高学年以上になると「学習塾」が第1位となり、子どもの教育に積極的になる親の姿勢が見て取れます。また、年代を問わず「英会話」の人気の高いことから、子どもに英語を習得して欲しいといった親の思いが見受けられます。

子どもを塾や習い事に行かせ始めた年齢は？

全体では、「5歳」(18%)から行かせ始めた親が最も多い。
 男子よりも、女の子の方が比較的早めに行き始めている。

図表3 子どもを塾や習い事に行かせ始めたのは何歳のときか？(全体・性別)



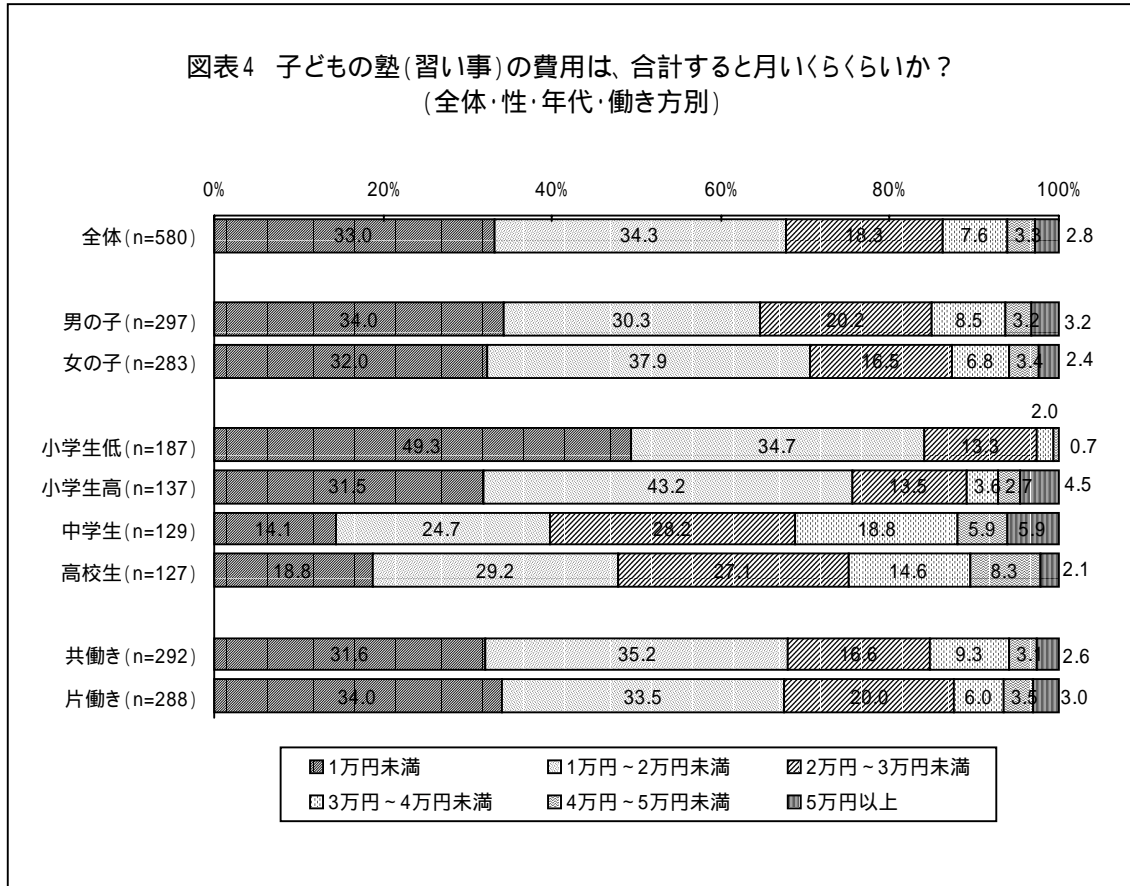
図表1において、子どもを塾や習い事に「行かせている」と回答した父母に対し、何歳から塾や習い事に行かせ始めたかを尋ねました。

全体では、「5歳」(18.5%)が最も多く、ついで「6歳」(17.0%)、「4歳」(12.6%)といった結果になりました。また、塾や習い事に行っている子どもの約3分の2は、「6歳」までに行き始めているようです。

子どもの性別に見ると、「2歳」までは性差はありませんが、女の子は「3歳」(19.2%)から行き始める割合が増加し、「5歳」(53.2%)の時点で過半数となります。このことから、男子に比べ、女の子の方が比較的早い年齢で塾や習い事に行き始めていることが見て取れます

子どもの塾や習い事の月々の費用は？

全体では、約3分の2の親が月々「2万円未満」払っている。
 子どもが中学生以上になると、「2万円以上」払う割合が過半数以上に。



図表1において、子どもを塾や習い事に「行かせている」と回答した父母に対し、費用は毎月どのくらい払っているかを尋ねました。

全体では、「1万円～2万円未満」(34.3%)が最も多く、ついで「1万円未満」(33.0%)と、約3分の2の親が2万円未満であることがわかりました。

子どもの性別に見ると、毎月2万円以上払っている親は、女の子の29.1%(16.5%+6.8%+3.4%+2.4%)に比べ、男子が35.1%(20.2%+8.5%+3.2%+3.2%)と、男子の方にお金をかけている親が多いことが見て取れます。

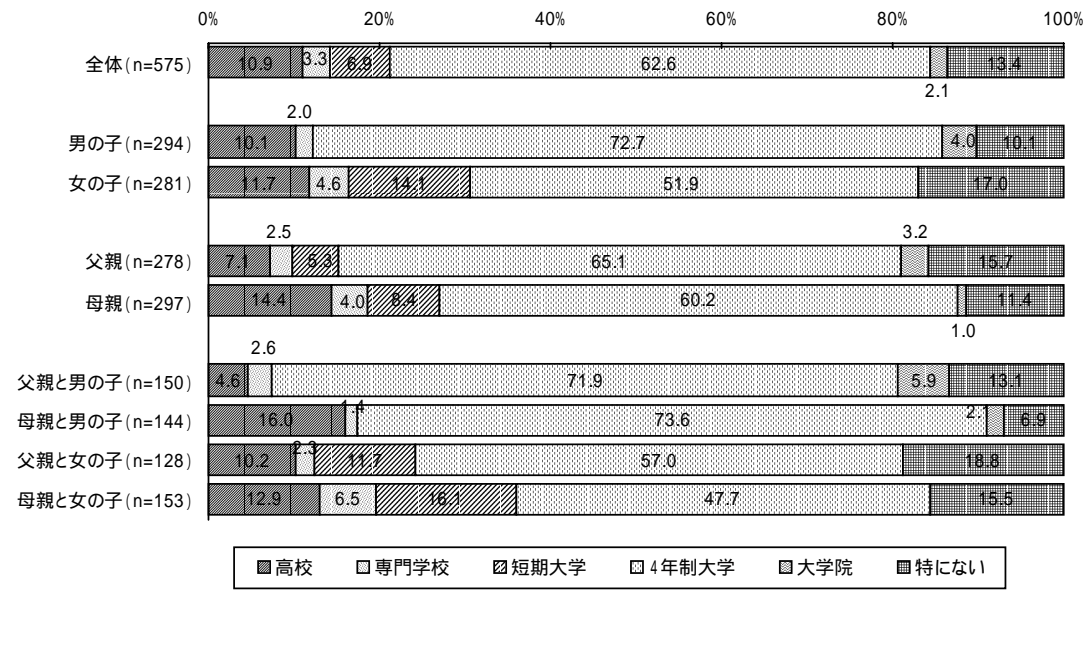
子どもの年代別に見ると、毎月2万円未満の割合(「1万円未満」と「1万円～2万円未満」の合計)は、小学生低学年は84.0%、小学生高学年は74.7%なのに対し、中学生になると38.8%と大幅に減少します。これらから、塾や習い事に大きく費用がかかるのは、子どもが中学生以上になったときであることがわかります。

親の働き方別に見ると、共働き・片働きによる大きな差異はありませんでした。

子どもに求める学歴は？

子どもに「4年制大学」までの学歴を求めている親は、全体の62%。
男の子には72%、女の子には51%の親が「4年制大学」までを希望。

図表6 子どもに求める学歴はどこまでか？(全体・性・父母別)



次に、子どもの将来を考え、学歴はどこまで求めるかを尋ねました。

全体では、「4年制大学」が最も多く、62.6%の親が希望しています。

子どもの性別に見ると、「4年制大学」を希望している親は、男の子に対しては72.7%、女の子に対しては51.9%います。また、女の子の場合、「4年制大学」と「短期大学」をあわせると66.0%となり、約3分の2の親は女の子にも大学への進学を希望しているようです。

子どもの性別と父母別に見ると、男の子に対する「4年制大学」への希望は、父親(71.9%)よりも母親(73.6%)の方が多く、息子の将来を心配する母親の姿が見て取れます。一方、女の子に対する「4年制大学」への希望は、母親(47.7%)よりも父親(57.0%)の方が10ポイントも多く、母親よりも「短期大学」希望が少ないことから、女の子にも「4年制大学」までを期待している父親が多いことを示唆しています。

子どもに将来なって欲しい職業は？

第1位は「公務員」で、全体では4割の親が希望している。子どもの成長とともに「公務員」希望は増え、高校生の親は過半数を超える。

図表7 子どもに将来なって欲しいと思う職業は何か？(全体・性・年代別) <複数回答>

	n	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位	
全体	580	公務員	41.2%	会社員	24.8%	薬剤師	14.3%	特にない	13.4%	教師	12.8%
男の子	297	公務員	49.2%	会社員	31.3%	医師・特にない		12.8%	学者・博士	12.1%	
女の子	283	公務員	32.9%	薬剤師	19.1%	会社員・看護師		18.0%	保育士	16.6%	
小学生低	187	公務員	34.2%	会社員	22.5%	薬剤師	17.1%	医師	15.0%	看護師	12.8%
小学生高	137	公務員	40.9%	会社員	23.4%	特にない	15.3%	保育士	13.9%	薬剤師	13.1%
中学生	129	公務員	42.6%	会社員	27.1%	薬剤師	16.3%	教師・特にない		13.2%	
高校生	127	公務員	50.4%	会社員	27.6%	教師	22.0%	特にない	14.2%	薬剤師	9.4%

次に、子どもに将来なって欲しいと思う職業は何かを尋ねました。

全体では、「公務員」(41.2%)が最も多く、ついで「会社員」(24.8%)、「薬剤師」(14.3%)、「教師」(12.8%)といった結果になりました。「公務員」や「薬剤師」、「教師」などが上位にくるなど、安定的な職業を希望する親の意向が見受けられます。

子どもの性別に見ると、男の子の場合は「公務員」(49.2%)が過半数近くと最も多く、ついで「会社員」(31.3%)、「医師」(12.8%)、「学者・博士」(12.1%)となっています。また、女の子の場合も「公務員」(32.9%)が最も多く、ついで「薬剤師」(19.1%)、「会社員」「看護師」(18.0%)、「保育士」(16.6%)といった結果になりました。

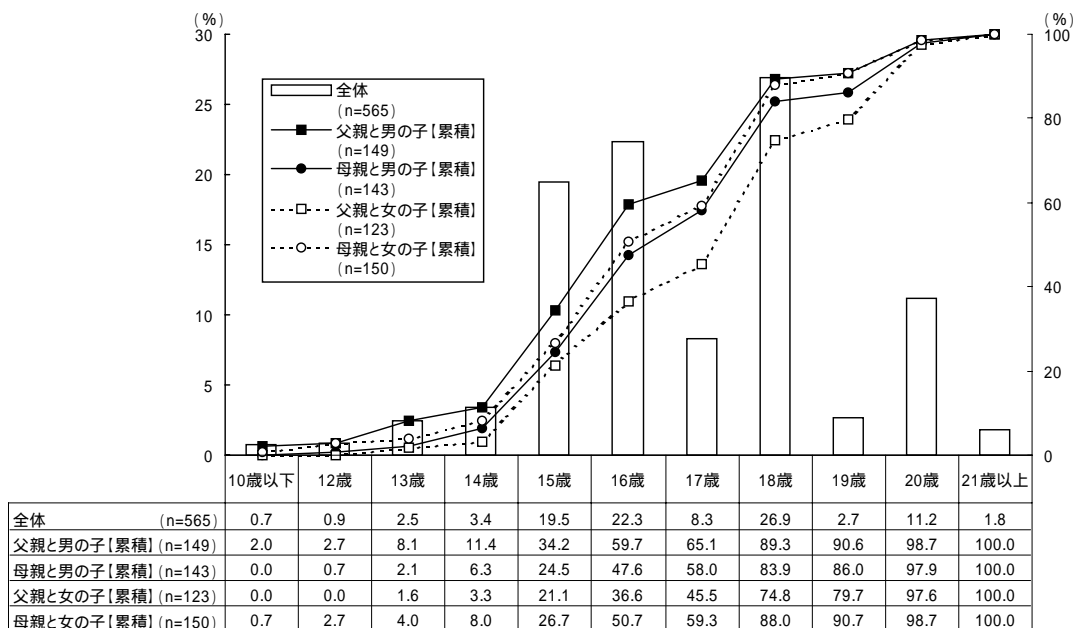
子どもの年代別に見ると、年代が上がり就職が近くなるにつれ、第1位の「公務員」を希望する親の割合が増加するなど、親の現実的な要望が表れています。

6位以下を見ると、男の子には最近注目の「起業者」(11.1%)が6位にきているほか、女の子には「専業主婦」(13.1%)が8位にきています(図表省略)。

子どもに交際相手ができるでもいい年齢は？

全体では、第1位 18歳(26%)、2位 16歳(22%)、3位 15歳(19%)。
親は、異性の子どもに対しては、高い年齢での交際を望んでいる。

図表8 子どもに異性の交際相手ができるでもいいと思う年齢はいつか？(全体・性・父母別)



次に、子どもに異性の交際相手ができるでもいいと思う年齢はいつかを尋ねました。
全体では、「18歳」(26.9%)が最も多く、ついで16歳(22.3%)、15歳(19.5%)
といった結果になりました。

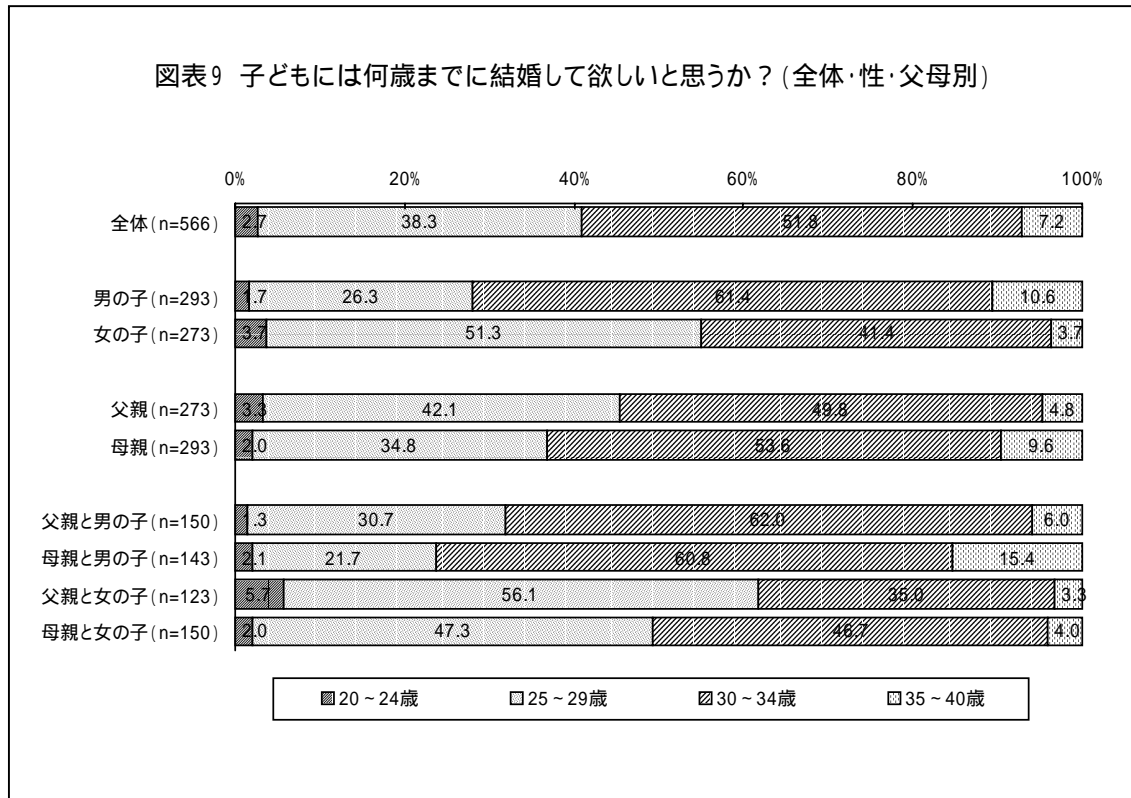
子どもの性別と父母別に見ると、父親が男の子に対して交際相手ができるでもいいとする年齢は、15歳までが34.2%、16歳までが59.7%と親子の組み合わせの中では最も早く、女の子に対しては15歳までが21.1%、16歳までが36.6%と最も遅いなど、父親の場合は子どもの性によって大きな差があります。一方、母親については、子どもの性による差はあまり見られませんが、女の子よりは男の子の方に遅い交際を希望しているようです。

これらから、父親の方が子どもの交際には拘りを持っていること、また、父親と女の子、母親と男の子など、親は異性の子どもに対しては、同性よりも比較的高い年齢での交際を希望していることが見て取れます。

子どもには何歳までに結婚して欲しいか？

男の子は「30～34歳」(61%)、女の子は「25～29歳」(51%)が最も多い。
母親は男の子に遅い結婚を望み、父親は女の子に早めの結婚を望む。

図表9 子どもには何歳までに結婚して欲しいと思うか？(全体・性・父母別)



次に、子どもには何歳までに結婚して欲しいと思うかを尋ねました。

全体では、「30～34歳」(51.8%)が最も多く、親の過半数は子どもに30代前半には結婚して欲しいと考えているようです。

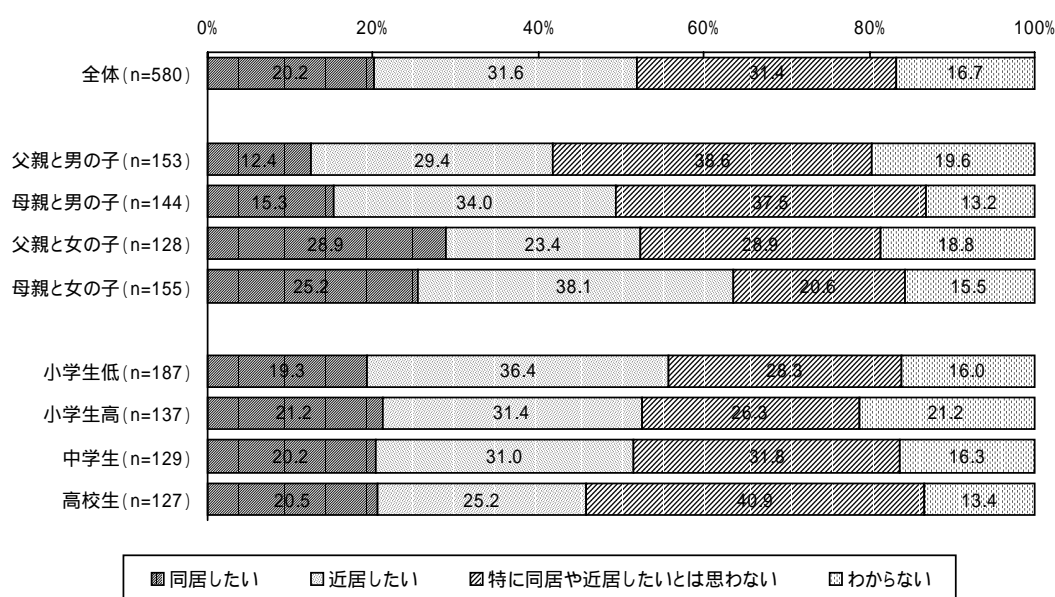
子どもの性別に見ると、男の子に対しては「30～34歳」(61.4%)、女の子に対しては「25～29歳」(51.3%)が最も多く、男性は30代前半、女性は20代後半に結婚して欲しいと考えている親が過半数以上いることがわかりました。

子どもの性別と父母別に見ると、男の子に対しては、父親よりも母親の方が高い年齢での結婚を希望しており、母親の4分の3は30代を希望(「30～34歳」(60.8%) + 「35～39歳」(15.4%))しています。一方、女の子に対しては、父親の方が低い年齢での結婚を希望しており、6割以上が20代を希望(「20～24歳」(5.7%) + 「25～29歳」(56.1%))しています。

子どもと将来同居や近居をしたいか？

子どもと同居や近居を望んでいる親は、全体の51%。最も同居したいのは父親が女の子と(28%)、最も近居したいのは母親が女の子と(38%)。

図表 10 子どもと将来同居や近居をしたいと思うか？(全体・性・父母・年代別)



次に、子どもと将来同居や近居をしたいと思うかを尋ねました。

全体では、「近居したい」(31.6%)が最も多く、「同居したい」(20.2%)をあわせると、過半数の親は将来子どもに近くにいることを望んでいることがわかりました。その一方、「近居したい」とほぼ同じ割合で「特に同居や近居したいとは思わない」親も31.4%存在しています。

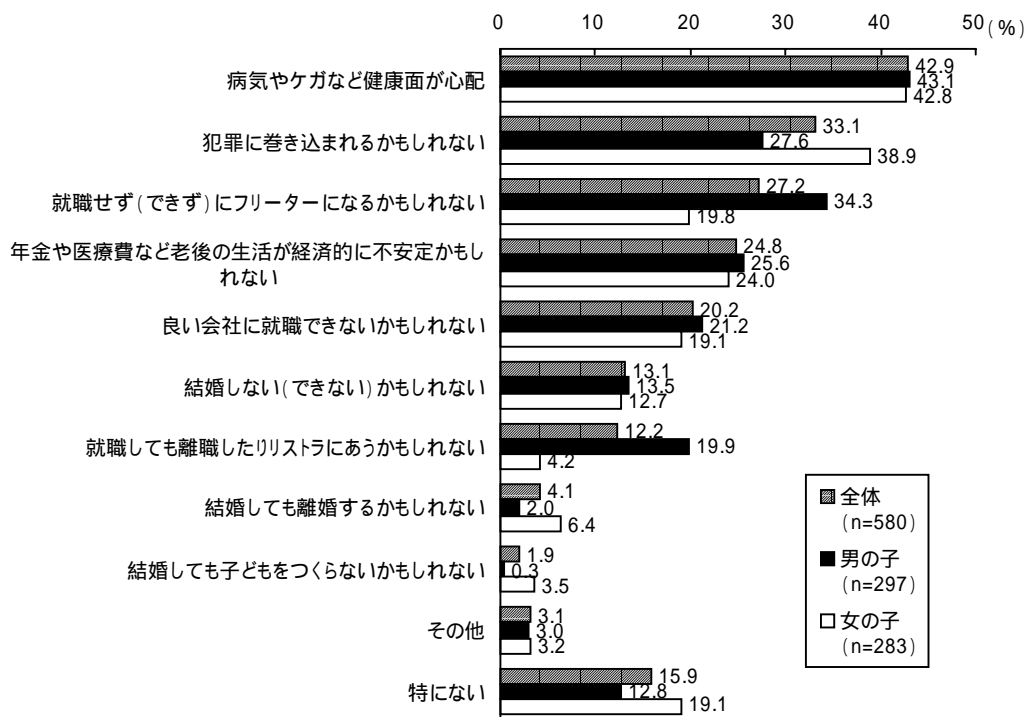
子どもの性別と父母別に見ると、「同居したい」割合が最も多いのは「父親と女の子」(28.9%)、「近居したい」割合が最も多いのは「母親と女の子」(38.1%)、「特に同居や近居したいとは思わない」割合が最も多いのは「父親と男の子」(38.6%)という結果になりました。

子どもの年代別に見ると、子どもの年齢が上がるにつれて「特に同居や近居したいとは思わない」割合が増加しています。

子どもの将来について心配なことは？

全体では、「病気やケガなど健康面が心配」(42%)が最も多い。
 ついで、男の子には“就職せず(できず)にフリーターになる可能性”(34%)を、
 女の子には“犯罪に巻き込まれるリスク”(38%)を心配する親が多い。

図表11 子どもの成人後の将来について何が心配か？(全体・性別) <複数回答>



最後に、子どもの成人後の将来について、何が心配かを尋ねました。

全体では、「病気やケガなど健康面が心配」(42.9%)が最も多く、ついで「犯罪に巻き込まれるかもしれない」(33.1%)、「就職せず(できず)にフリーターになるかもしれない」(27.2%)といった結果になりました。

子どもの性別に見ると、「病気やケガなど健康面が心配」については性差もなく男女ともに第1位となっていますが、女の子には「犯罪に巻き込まれるかもしれない」(38.9%)が多く、男の子には「就職せず(できず)にフリーターになるかもしれない」(34.3%)や「就職しても離職したりリストラにあうかもしれない」(19.9%)などの就職に関する心配ごとが多い結果となっています。

【研究員のコメント】

本アンケート調査は、親子の実態と意識を探るべく、親子のコミュニケーションや子どもの将来に対する親の期待と不安、子育てなどのテーマをもとに実施したものです。調査結果の第一弾は、2005年4月に「親子関係に関するアンケート調査」として発表いたしました。今回はその第二弾として、子どもの将来に対する親の期待と不安に関する調査結果を掲載しています。

子どもの未来を想像するとき、進学や就職、異性との交際、結婚、住む場所など、子どもの成長に伴い、親の胸中には期待と不安が入り交じった思いが生じます。

子どもの将来のために塾や習い事に行かせている割合は、全体では約3分の2、特に、小学生に限っては8割以上にも上り、小学生は塾や習い事に行くのが当然といった風潮になっていることが見て取れます。また、最初に塾や習い事に行き始める年齢も3歳から6歳の間が多く、親の期待は子どもが幼いうちから大きくふくらむことがわかります。さらに、子どもの将来のために私立の学校に行かせたいと思っている親は約3分の1おり、その思いも子どもが小さい時から生じているようです。

子どもの進学に関しては、約6割の親が「4年制大学」までの学歴を求めており、子どもの性別に関係なく、男女ともに大学を出て欲しいといった期待が過半数以上の親にあることがわかりました。

子どもの将来の職業については、小学生の早い段階から“公務員”が圧倒的に人気で、その他にも資格を有効に活用できる“薬剤師”や“教師”など、安定的な職業を希望する親が多いことがわかります。

近年低年齢化していると言われている異性との交際時期については、全体では18歳を希望する親が最も多いなど、比較的遅い年齢を願う親の姿が見受けられました。

子どもの結婚年齢については、晩婚化の影響か、過半数以上の親が男の子には30代前半を、女の子には20代後半を希望しています。

将来的に子どもとの同居や近居を希望している親は過半数おり、中でも、男の子よりも女の子に対して同居や近居を望む親が多いこともわかりました。

子どもの将来について親が一番不安なことは“病気やケガ”で、その他にも、男の子には“就職に関すること”、女の子には“犯罪に巻き込まれること”などが多く、最近の社会問題の影響が顕著に表れていました。

子どもの将来を考えることは親にとって喜びのひとつですが、同時に子に対する親の責任を感じる瞬間でもあり、その感じ方は人によって様々です。今回の調査では、多様化する子に対する親の思いについて、多少なりともその傾向をかいまみることができました。

(研究開発室 副主任研究員 丹野 裕人)